

平成 28 年度

第 1 回印西市景観計画等策定委員会

印西市景観まちづくり市民懇談会
会議録

1. 第 1 回懇談会 P 1
2. 第 2 回懇談会・作業部会 合同会議 P 5
3. 第 3 回懇談会・作業部会 合同会議 P 10

平成 28 年 6 月 27 日 (月)

会議録

【名 称】 印西市景観まちづくり市民懇談会	【日 付】 H27.12.10 (木) 13:15~14:45	【出席者（敬称略、順不同）】 懇談会委員：鈴木、五十嵐、村沢、松丸、岡田、樋口、古俣、村越、篠原、笠井、下田、滋賀、吉田、山口、金子（15名） 事務局：鈴木、岩井、笛田、篠原、吉田 コンタクト(LAU)：吉岡、牧野、仁司
【内 容】 第1回会議	【場所等】 印西市役所附属棟2階 24・25会議室	

【目的】：印西市景観計画策定及び印西市景観条例制定に向けて、景観まちづくり市民懇談会に意見をもらう。

- 【内容・結果】**：(1) 座長・副座長選出について
- 座長は「笠井幸夫委員」、副座長は「五十嵐新一委員」に決定した。
- (2) 策定体制、役割及びスケジュールについて
- 「景観づくりにおける組織」について意見交換を行った。
- (3) 景観の理解と今後の取組み等
- 「調査等に係る補助」、「印西市と委託業者の関連」、「景観の方向性」、「近隣自治体の景観行政団体移行の状況」、「景観計画区域の市全域指定の事例」、「今後の予定」について意見交換を行った。
- (4) その他（連絡事項）
- 次回懇談会は、市内視察及びワークショップを予定しているため、日程が確定次第、各委員に連絡する。

【配布資料】：次第

- 資料1：印西市景観まちづくり市民懇談会設置要綱
- 資料2：印西市景観まちづくり市民懇談会委員名簿
- 資料3：策定体制、役割及び手順
- 資料4：景観の理解と今後の取組み等

※別紙次第の通り進行

(1) 座長・副座長選出について

- 別紙資料1『印西市景観まちづくり市民懇談会設置要綱』の第3条1項に基づき、座長及び副座長の選出を行った。
- 決定事項について以下に示す。
- 委員の互選により、笠井幸夫委員が座長に選出された。また、座長の指名により五十嵐新一委員が副座長に選出された。

(2) 策定体制と役割について

- 資料3『策定体制、役割及び手順』を用いて、策定体制とその役割、今後のスケジュールについて説明を行った。
- 意見交換の概要について以下に示す。

景観づくりにおける組織について

(委員) 資料3の3頁にある工程表に策定委員会、幹事会・施策研究会、市民懇談会、事業者懇談会と4つの委員会が示されているが、各組織のメンバー等の概要と本懇談会の関係について説明願う。

(事務局) 策定委員会は、案ではあるが学識経験者や商業・農業の代表者等により構成する組織で、平成28年度から組織を立ち上げる予定である。学識経験者は、大学の先生等になるが、色彩の専門家等もメンバーに含めたいと考えている。次に印西市景観計画等策定庁内会議だが、庁内本部、庁内幹事会、作業部会に分かれており、市長、副市長、教育長、各部長で組織する庁内本部。その下部組織として課長級で組織された庁内幹事会。そしてその課の職員及び庁内公募の職員により構成される作業部会となる。

(3) 景観の理解と今後の取組み等について

□資料4『景観の理解と今後の取組み等』及び映像資料を用いて、景観の理解と今後の取組み等について意見交換を行った。

■意見交換の概要について以下に示す。

調査等に係る補助について

(委員) 今後、写真撮影や情報収集等の調査にかかる経費は行政から出ないのか。全てボランティアということであれば構わないが、ファイナンスの問題は必要と感じる。

(委員) その辺については事務局に任せた方がよいのではないか。

(事務局) 交通費等の経費を市で出すのは難しいが、調査に必要な道具等があれば用意したい。

印西市と委託業者の関連について

(委員) 本業務を受注しているコンサルタント会社は、印西市と関連があるのか。

(コンサルタント) 印西市の業務を受注したことはないが、近辺では成田市や我孫子市、千葉市等の業務を受注したことがある。

景観の方向性について

(委員) 世代の変化で多様な意見が出ると思うが、全体の6、7割が良いと思う方向に持っていくという理解でよいのか。

(コンサルタント) 専門家として景観に関する一定の基準は既にもっているが、今後、市民・事業者アンケートの結果や地域の特性も踏まえながら考えていきたい。

近隣自治体の景観行政団体移行の状況について

(委員) ほとんどの自治体が景観行政団体になっていると思うが、近隣の白井市や八千代市はなぜ景観行政団体になっていないのか。

(事務局) 景観行政団体になると、市独自の景観計画及び景観条例に基づき、景観に関する具体的な指導ができるようになる。印西市は市街化が進み商業施設が多数出店し、景観に係る課題も増え、今後、景観について考えていく必要が出てきたため景観行政団体に移行し、景観計画の策定や、景観条例の制定を目標に進み始めたところである。

(事務局) 印西市は、景観法が施行されて平成17年、18年に君津市(一部地域)とともに千葉県が主体となり景観のモデル地区としてモデル景観計画(案)を策定した経緯がある。その後、印西市では国道464号沿道施設の色彩を抑制するために色彩基準案を策定したが、計画の策定まではいかなかった。印西市の景観行政団体への移行が遅れた理由として、千葉ニュータウンの事業の完了に向け計画に様々な変更があり一旦足踏み状態となり、昨年12月に景観行政団体に移行し、今年度から3年かけて景観計画を策定する方針に至った。印西市が景観行政団体に移行する際に、白井市とは事前に話をした経緯はあるが、白井市等が景観行政団体に移行しない明確な理由までは分からない。

景観計画区域の市全域指定の事例について

(委員) 印西市全域を景観計画区域に指定するという説明があったが、千葉県下の景観計画を策定した自治体で全域指定した事例はどの程度あるのか。

(コンサルタント) 先ほどの説明では、想定として市全域を指定すると言ったが、基本的に他の事例をみても全域指定が多い。

(事務局) 例えば、景観計画自体は、市全域を景観計画区域に指定し、その中で地域の特性に応じて重点的に景観づくりを行う地区については細かい計画が立てられるようになっていると理解いただきたい。

(事務局) 基本的にある区域については、景観計画を適用させないために抜くような考えは無いので、対象範囲は全域と考えている。今後皆様と一緒に意見交換をしながら決めていきたい。

今後の予定について

(委員) 現状で次回の視察の候補地は決まっているのか。

(事務局) 現状では決まっていないので、候補地を出していただければ事務局で検討したい。

(コンサルタント) 特に視察しておいた方がよい場所はあるか。

(委員) 原風景や近代的な場所における良い景観、普通の景観、悪い景観を視察したらどうか。国道464号の雑草や沿道建物の色彩、その他旧本埜地区や旧印旛地区の田園風景等も考えられる。

(委員) 市内の景観で候補がいくつかあるので事務局の連絡先を教えてください。

(事務局) 後ほど連絡先を配布する。

(委員) 工程表では、次回懇談会の開催が2月中旬となっているが、その頃開催予定でよいのか。

(事務局) 1月下旬から2月中旬で調整したい。

(4) その他(連絡事項)

- 次回第2回景観まちづくり市民懇談会は、市内視察及びワークショップを午後から3時間30分程度予定しているので、日程が確定次第、各委員に連絡する。

■写真



▲第1回市民懇談会の様子1



▲第1回市民懇談会の様子2

以上

会議録

【名 称】 印西市景観まちづくり市民懇談会 印西市景観計画策定庁内作業部会	【日 付】 H28.2.9 (火) 13:00~17:00	【出席者（敬称略、順不同）】 懇談会委員：鈴木(由)、松丸、樋口、笠井、吉田、五十嵐、山崎、下田、山口、村沢、岡田、篠原、滋賀、金子 (14名) 作業部会委員：鈴木、佐藤、星出、櫻井、五十嵐、成田、野口、浅野、稲村、石川、増田 (11名) 事務局：篠原、吉田、藤澤 コンサルタント(LAU)：吉岡、牧野、仁司
【内 容】 第2回合同会議	【場所等】 市内の景観要所、 印西市役所3階 大会議室	

【目的】：景観まちづくり市民懇談会とともに市内視察を行い、市の景観特性について理解を深めてもらうとともに良い景観、悪い景観について意見をもらう。

- 【内容・結果】**：(1) 市内視察について
- 市内の景観要所 23 カ所の視察を行う。
- (2) ワークショップについて
- 各班 (A、B、C) に分かれて「好きな景観、嫌いな景観」について意見交換を行う。
- (3) 連絡事項
- 次回懇談会は、次年度の開催を予定しているため、日程が確定次第、各委員に連絡する。

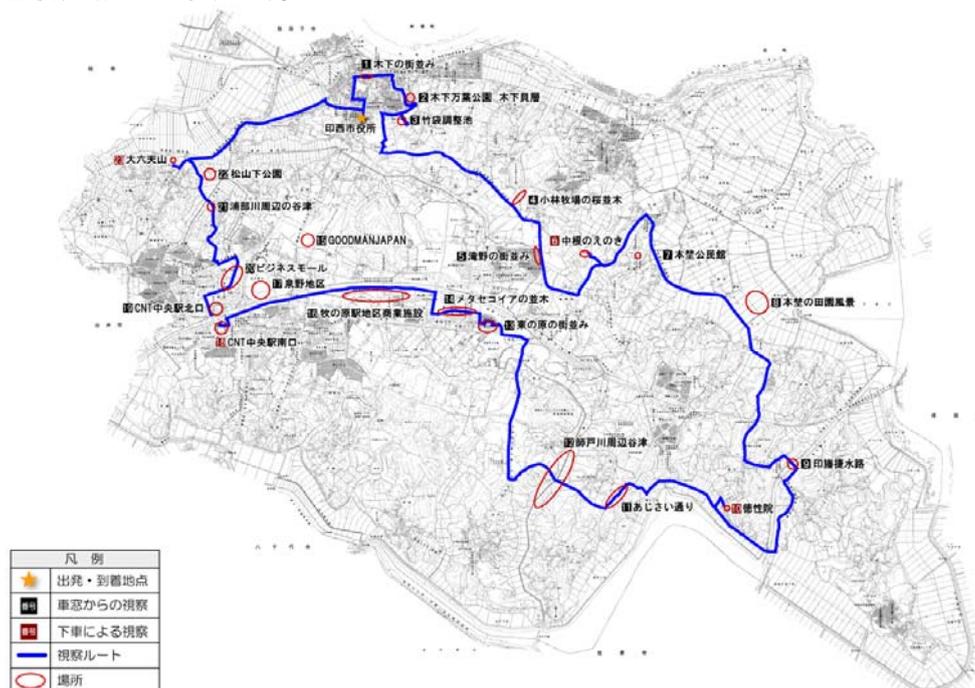
【配布資料】：次第

- 資料1：印西市景観に係る現地視察
- 資料2：景観計画等策定工程表（案）
- 資料3：景観特性・課題とアンケート調査集計
- 補足資料1：ワークショップの進め方
- 補足資料2：意見記入シート

※別紙次第の通り進行

(1) 市内視察について (13時~15時)

- 資料1『印西市景観に係る現地視察』をもとに、車両5台で市内の特徴的な景観について視察を行った。
- 視察内容について以下に示す。



(2) ワークショップについて (15時～17時)

□ 資料3『景観特性・課題とアンケート調査集計』を用いて、市内の景観特性と市民・事業者アンケート集計結果について説明を行った。その後、各班で『市内の良い景観、悪い景観等』について、ワークショップ形式により意見交換を行い、最後に各班代表者により発表を行った。

■ 各班の意見出しの内容について以下に示す。(※出された意見は、そのまま表記)

班	分類	意見	
A班	好きな景観	<ul style="list-style-type: none"> 大六天山見晴らしがとても良い 大六天からの下手賀沼 利根川の土手沿いからの眺望 利根川堤防の上 千葉NT中央駅周辺よく整備されているから ビジネスモール周りの木・花 シンプルな設計・色で街に馴染んだ景観近代的な建築物 結縁寺の彼岸花 人通りが多いこと 464号沿いの商業施設ジョイフルの景観 国道464号、一方通行で広く走りやすい 本塾の田園 白鳥 464号沿道の花 	<ul style="list-style-type: none"> 花がある景観 メタセコイアの並木道がきれいなので 東の原地区の無電中化された街並み 電柱・電線が無い景観 道路脇のあじさい 鎌刈、師戸 瀬戸 徳性院からの富士山と夕日 徳性院 (見晴らしが良いので) 徳性院から西印旛沼 徳性院からの遠景 印旛捷水路 (景色が良いので) 印旛捷水路 印旛捷水路から市井橋 吉高の大桜 豊かな自然 (里山、田園、川、沼) 緑と水辺が多いところ
	嫌いな景観	<ul style="list-style-type: none"> ヤード 街になじまない色の家 道沿いのゴミ 市内の雑草やゴミ、不法投棄 草深の464号アクセスポイント (閉鎖した道路) ニュータウンと旧市街地の格差、ギャップ NTの市街地と旧市街地との間の歩道が整備されていない 464号道端に茂る雑草 464号の雑草 道路 (464号) の雑草 道路、歩道の雑草 	<ul style="list-style-type: none"> YAMADA デンキの看板 電飾の広告 464号道路沿い商業施設ばかりでざらざらしてきた 道路沿いにある電光掲示板 (光がきつい) 464号大型店の色 464号の掘削 木下の街あまり風情がないので 閉まっている店舗 人と店が少ない (にぎわい) 雑草が放置された農地 千葉NT中央駅南口ビルが派手なので 千葉NT中央駅前のゴミ焼却場が駅前なのに恥ずかしい
	その他	<ul style="list-style-type: none"> 車が多い 	
B班	好きな景観	<ul style="list-style-type: none"> 大六天山 ビジネスモール (電線、柱がない、植栽、建物) ビジネスモール (企業の管理で維持されている) カインズ周辺の物流倉庫やデータセンター交通の流れがよく街が動いている 中央駅前の高層建築物きれいにそろっている ①竹袋調整池②木下貝層③大六天④師戸川谷津 竹袋調整池、市の中心部にあって癒されると思うところ 駅前のメタセコイアの並木 東の原の街並み (電線が無い、植栽、家) 中根の榎 (時代を感じさせない変わらない田園風景) 映画のロケーションなどで撮影業者から高い評価を得ている (中根の榎) 	<ul style="list-style-type: none"> 浦部の大六天山は晴れていれば、もっと良かったと思う。 田園地帯は、田植えから稲刈の時期が良い景観だと思う。 冬の景色の為に電色が映えてきれい 印旛捷水路 (緑、水、橋) 小高い場所 (山岳) 20～30m (標高) からの俯瞰愛宕神社からの本塾 都市の景観と里山の景観を両方楽しめる (市全体) 四季が映える景観が今も多く残る (市全体) 印西には30mクラスの小高い場所があり、そこから見る低地 (谷津・沼・田園) の景観を見るところがある。 徳性院 徳性院の眺めがよい 徳性院の高いところから 富士山を見る景観
	嫌いな景観	<ul style="list-style-type: none"> ビル自体のカラーは個性であり良いが看板 (表示) の不統一性は景観を損ねる北総線 (464号) 沿い 高層建築物が駅前集中し圧迫感がある (千葉NT中央駅) 富士山が見える場所がだんだんと減っている (千葉NT地区) 道路わきの雑草が見苦しい。特に夏場はみっともない 国道464号の雑草 国道464号の独立看板の乱立 464号線沿いの掘削部の立橋下にはゴミが散乱している (NT商業地区) 	<ul style="list-style-type: none"> 素晴らしい景観が多いが、「ゴミ」が多くマイナス (吉高近くやあじさい通り近く) 電線・電柱が景観を損なっている。行政です。監視・制限が必要①道作古墳②エノキ近くの田 普段から気がつくが、人通りが少ない。464号沿いは別として、今日の時期なので、枯れ木状態であったが、全体が寂しく感じた。小さな河川の汚れが目立つ。脇道のゴミのマナー。 太陽光パネル 駅前の空地や低層の建物が統一されていない 里山のゴミ、ボイ捨て、不法投棄 464号沿いの歩道の草、ごみピンポイント他はある程度よい
	その他		—

C班	好きな景観	<ul style="list-style-type: none"> ・大六天 ・大六天からの手賀沼 ・手賀沼、亀成川 ・ビジネスモールの各企業が管理している植栽と建物のバランス ・ビジネスモール企業の努力 ・木下万葉公園展望広場から木下の街並みが正面部分しか見えない。もっと広く利根川、筑波山が見えるように木を切ること ・校歌にも歌われている ・筑波山、富士山への眺望（色々なところから） ・田んぼ 稲刈前 平岡の辺り ・東の原の街並みヤシの木が街並みに合わない ・サイクリングロード（自転車道）よりガー→水面が本塾の干拓空が広い ・きれいな谷津 ・連続する斜面林生物多様性にもよい 	<ul style="list-style-type: none"> ・生き物のために ・里山風景管理 ・水辺+水田+斜面林（緑）、（水塚も） ・水田風景 ・丘陵上、堤防上等利根川、印旛沼手賀沼を眺めるところ ・徳性院眺望絶佳 ・東の原の街並み、無電柱中柱ディーテールデザイン ・徳性院雄大な水辺の眺望が心を癒す ・浦部川の谷津中央駅に近く、斜面林が良く残されている ・住宅地、商業業務地A 土地利用の用途がはっきりしている。（工場が無い） ・旧来の農村集落（伝統的民家群、長屋門、土蔵）
	嫌いな景観	<ul style="list-style-type: none"> ・整備されていない空家 ・コンビニ等のつぶれた後 ・464号 雑草 ・464号沿いの雑草、住宅地 自宅前の雑草 ・見えるとよい ・ヤード（資材置場）谷津によくある ・雑草道路 ・残土の埋設 	<ul style="list-style-type: none"> ・きたない谷津 ・丘陵上の森林の空洞化スクリーン化 ・雑木林の中の放置車両や何をしているか分からない作業場 ・ヤシの木住宅あっているのか ・中央駅、牧の原駅ムクドリ ・AHC住宅（黄色か黄緑のまわりの壁の色）西の原の景観に合わない
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・松山下公園イベントの案内 	

■ 各班代表者による発表内容について以下に示す。

班	発表内容
A班	<ul style="list-style-type: none"> ・印西市には、印旛沼の捷水路の眺めや徳性院からの富士山への眺め、また白鳥飛来の池、利根川、吉高の大桜、大六天山からの手賀沼などへの眺め等、素晴らしい自然景観がある。 ・464号線が非常によく整備されており、便利である。但し、その沿道の商業施設には非常に派手なものがある。例えば某電気店等の外壁色など景観を損ねるものがある。また、夏場は道端の雑草が生い茂っており非常によくなく、部分的にはNPO等の努力で非常にきれいに花が植えられているところもある。そのようなところは非常に心地よい景観と考えられている。 ・464号線周辺のまちなみについては、メタセコイアの並木や牧の原の無電柱化されたすっきりとした街や、ビジネスモールがよく整備されている。そのほか、ニュータウン中央駅南側にはよく花が植えられて、街並みもきれいである。一方、木下駅周辺が大変殺風景で非常にさびしい。 ・印西市は非常に素晴らしい自然に恵まれており、そのような自然と旧市街、新市街（ニュータウン）のギャップやそのバランスに欠ける。例えば、旧市街と新市街の歩道がきちんと整備されていない。 ・観光資源をうまく市民に案内するような観光パンフレット等を作成できるとよい。 ・合併からまだ日が浅いこともあるが、今後この素晴らしい観光資源を市民全体で共有できるようにしていけるとよい。
B班	<ul style="list-style-type: none"> ・良い景観について、本市は平地の中に30m程度の小高い場所があるのでそこから見た景観は非常に良い印象を持った。 ・例えば視察で周った大六天山や徳性院からの眺め以外にも良い場所がたくさんあるのではないかなと思う。それらの景色が良いのは全て人間の特性ではないかと思う。 ・印西牧の原駅周辺のメタセコイアの並木は、他の場所ではないと思われるので非常にアピールできるのではないかな。但し、メタセコイアや植栽が豊かな住宅地は、景観は非常によいのが、そのメンテナンスが大変である。例えばメタセコイアでは1年間に1m伸びるので維持管理が大変である。その他、雑草も緑ということに関しては良いが野放しにするとひどいことになる。ゴミについても同じである。 ・やはりメンテナンスが必要だということで、景観的にはよいが必ずマイナスの部分もあるので裏腹であると感じた。 ・中根のえのきはロケ地で有名な場所だが、類を見ない非常に良い景観であった。 ・良い景観の場所は必ずメンテナンスを必要とするので、市民や行政も手入れをしっかりとしてほしいと感じた。
C班	<ul style="list-style-type: none"> ・地形や自然系とニュータウンの内容に大きく意見が分かれた。文化系に関する意見があまり出てこなかった。

- 自然系は、地形の特徴である谷津や水田が美しいということ、また、ゴミヤードが市内に点在しており、非常に心配であるということについて意見が出た。
- 視察では、良好な眺望地点が2箇所あったが、発掘すればもっと良い場所が出てくると思われる。
- 徳性院からの富士山や印旛沼への眺望は良好だが名前がついていないのが残念である。佐倉市には非常に有名なサンセットヒルズという場所があるので、徳性院の眺望地点も「花台夕陽丘」と勝手につけている。その他にも多少木が邪魔しているが、木下万葉公園にも景色が良いところがある。このように愛着を持ち名称を多くつけることが非常によいという意見が出た。
- 市街地では、草が生える場所が多くみられるので草との戦いが大変である。URはヤギに草を食べさせている。464号沿道は、草刈りだけでもお金がかかるので役所ではできないので、役所以外の人をどの様に使うかということが今後の課題である。
- ビジネスモールや東の原の住宅地など無電柱化されたまちなみは良い。また、自転車専用道路は、印西市や佐倉市等少ない市町村しか持っていないので、このような特徴あるところをどのように活かし、宣伝していくのが大事である。
- ムクドリが多すぎるとフン等の被害も出てあまりよくないが、それは逆に印西市の環境の良さを表しているとも捉えられる。

(3) 連絡事項

- 次回懇談会は、次年度の開催を予定しているので、日程が確定次第、各委員に連絡する。

■ 写真



▲ 視察の様子1 (中根のえのき)



▲ 視察の様子2 (徳性院)



▲ 視察の様子3 (千葉ニュータウン中央駅南口)



▲ 視察の様子4 (大六天山)



▲ワークショップ意見出しの様子1 (A班)



▲ワークショップ意見出しの様子3 (B班)



▲ワークショップ意見出しの様子2 (C班)



▲ワークショップ発表の様子1 (A班)



以上

会議録

【名 称】 印西市景観まちづくり市民懇談会	【日 付】 H28.5.13 (金) 10:00~12:00	【出席者（敬称略、順不同）】 懇談会委員：(12名) 鈴木 (由)、五十嵐、村沢、山崎、岡田、樋口、鈴木 (康)、笠井、下田、吉田、山口、金子 作業部会委員：(11名) 佐藤、星野、櫻井、横尾、五十嵐、峰村、野口、稲村、駒内、増田、根本 事務局：鈴木、篠原、宮崎 コンタクト(LAU)：吉岡、牧野、仁司
【内 容】 第3回合同会議	【場所等】 印西市役所附属棟2階 23・24会議室	

【目的】：平成27年度印西市景観基礎調査資料の内容報告をするとともに、印西市が目指す景観形成の目標や基本方針設定に係る意見をもらう。

【内容・結果】：(1) 景観基礎調査（概要）について

- 「道作古墳のPR」、「歴史・文化系の景観要素図の充実」、「UR都市機構との連携」について意見があった。

(2) ワークショップについて

- 各班（A、B、C）に分かれて「景観形成の目標や基本方針等に繋がるキーワード出し」について意見交換を行った。

(3) 連絡事項

- 印西市景観計画等策定委員会委員への本懇談会代表者として下田泰司委員、吉田紀子委員が選出された。

- 次回懇談会は、7月中旬の開催を予定しているので、日程が確定次第、各委員に連絡する。

【配布資料】：次第

資料1：印西市景観基礎調査資料（概要版）

資料2：景観形成の基本目標等の検討

資料3：景観計画等策定工程表

資料4：印西市景観計画等策定委員会設置要綱

資料5：策定委員会案

補足資料1：ワークショップの進め方

補足資料2：意見記入シート

※別紙次第の通り進行

(1) 景観基礎調査（概要）について

- 資料1『印西市景観基礎調査資料（概要版）』を用いて、上位・関連計画や法規制、今後に向けた景観特性と課題集約等について説明を行い、意見交換を行った。

- 意見の概要について以下に示す。

道作古墳のPRについて

(下田委員) 道作古墳の見学会を先日開催し、我孫子や成田、東京から約120名程度参加があった。その周辺では、旧石器時代から人が住んでおり遺跡が出るなど非常に貴重な場所である。資料1P32に道作古墳の写真が一枚のみの掲載なのでもっとPRしてほしい。

歴史・文化系の景観要素図の充実について

(下田委員) P31「歴史・文化系の景観要素図」に地域の人に親しまれている稲荷神社が抜けているので、他も含めてどの程度のもを表記するのか検討が必要。

UR 都市機構との連携について

(樋口委員) 千葉ニュータウン地区や牧の原地区周辺にはUR 都市機構の賃貸住宅が多いので、街並みの景観を今後きれいにしていくとなると、根本においてUR 都市機構とのパイプが無いと中核に触れられないという問題が起きてくる。

(2) ワークショップについて

□ 資料2『景観形成の基本目標等の検討』を用いて、景観基本計画の目的や景観のとらえ方、景観形成の基本目標等設定の考え方について説明を行った後、各班で『景観形成の目標や基本方針等のキーワード出し』について、ワークショップ形式により意見交換を行い、最後に各班代表者により発表を行った。

■ 各班の意見出しの内容について以下に示す。(※出された意見は、そのまま表記)

班	基本目標 に関するキーワード	基本方針 に関するキーワード
A 班	<ul style="list-style-type: none"> • 住民がつくるうるおいのある • 誰もが安らぐ • 手をかける、つくっていく • 市民が景観の財産を理解意識を高める • 自然と歴史が 	【保全・活用すべき景観】 <ul style="list-style-type: none"> • 水と緑 • 印旛沼河川流入してくる • 谷津農地の保全 • 歴史のある大きい樹木 • 水質、成田から流れてくるのはきれい • 水草佐倉側で元の植生復元 • 植生 • 市民農園土と人のかかわり土において
		【改善すべき景観】 <ul style="list-style-type: none"> • 史跡に対する人工橋（電柱・電線等）の移設→道作古墳 • 放置された谷津、林 • ボサ山の手入れ、手入れしていない里山 • 阻害しているものを改善 • ヤード（素材、中が見える） • 464号沿いのソーラーパネルの計画市民の意見を聞く • 沿道、道路の雑草、国道464号等→ごみすて • ソーラーパネルの乱立 • 不法投棄のゼロ→景観を損ねる • 乱立する独立看板（国道464号沿い）
B 班	<ul style="list-style-type: none"> • 都市と自然の調和→つなぐ • 心も自然も「うるおい」にかこまれるまち • 巻き込み • みんなでつくる • 印西らしさ（定義は難しい） • つむぐ • 守ろう 	【保全・活用すべき景観】 <ul style="list-style-type: none"> • 水辺、印旛沼とふれあう場所 • 人を近づけるように • 公共施設への花等の植栽 464号も • 新しく良好な住宅地をつくる • 調整池の美化→良い景観になる
		【取組・進め方・体制】 <ul style="list-style-type: none"> • 地区の人の協力 • ボランティア団体 etc の育成と協力 • 印西は「歴史」→旧石器～縄文 ～弥生～古墳のアピール • 景観を損ねている人工物の場所特定 • 20～30m高所からのマップ作り（眺望）→散策 • 雑草の管理の体制づくり誰が？いつ？費用？ • 谷津と小動物（蝶、トンボ） • 自然の宝庫→蝶、トンボ • 改善等取組み重点区域の設定 • 写真PR • 印西市の景観を再発見できる見学会等
		【改善すべき景観】 <ul style="list-style-type: none"> • 谷津の保全 • らしきは里山 • 斜面林 • 都市と自然の調和 • 印西らしさ（特性）としての環境と都市の融合 • （現在）住み良いまち、ナンバー1としての気（品格？） • 小林の光明寺の境内にある金比羅様を現在ある稲荷の隣に修復して建立する計画あり • 野鳥が減った特にカケス、コジュッケイ、マヒワ、ウグイス等
		【保全・活用すべき景観】 <ul style="list-style-type: none"> • 谷津の保全 • らしきは里山 • 斜面林 • 都市と自然の調和 • 印西らしさ（特性）としての環境と都市の融合 • （現在）住み良いまち、ナンバー1としての気（品格？） • 小林の光明寺の境内にある金比羅様を現在ある稲荷の隣に修復して建立する計画あり • 野鳥が減った特にカケス、コジュッケイ、マヒワ、ウグイス等
		【改善すべき景観】 <ul style="list-style-type: none"> • 里山景観は良いが生き物が少なくなっているメダカ、ホタル • 里山景観は良いが外来生物が多くなっているナガエツルノゲイトウ

	<ul style="list-style-type: none"> ・居心地 ・心地よい ・都市と自然をつなぐ ・印西市の特徴「水」 ・無電柱化のあるまち ・にぎわい ・都市と自然の近さ ・水辺と谷津を守る 	<ul style="list-style-type: none"> ・規制田園の中のメガソーラー ・下町人間くさく人が多い店、飲食店 ・自然豊かな中の人工物 ・平岡のキャンプ場通り那須地区に似ているが旧豊島さんのゴミ屋敷キレイに ・河川改修の緑化 ・砂田地区笠神地区の間にある川の浄水をしてほしい 昭和 50 年頃まではうなぎ、しじみ、川魚がたくさんいた ・防災調整池の緑化 ・盛土きたない ・森林の伐採 ・3 面側溝 ・既存地区の買物難民 ・イノシシ、ハクビシン、タヌキの処分農作物、果樹に被害 ・小林浅間の銀杏並木できれば紅葉後に剪定してほしい <p>【新たにつくる景観】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無電柱 ・電柱の無いまち ・にぎわいイベント ・商業施設、商店街、見た目よい賑わい ・色の統一 ・駅中心から里山まで緑の誘導 ・谷津の中心にある川沿いに散策路をつくる ・花壇津々浦々に ・しゃれっ気 (おしゃれ感) ・北総線沿いの緑化 ・biocorridor 生物回廊 ・エメラルドネックレス構想 ・飲食店の少ない <p>【取組・進め方・体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・印西だからこそこできる (ある) 伸ばせる強みをもっと出す (アピール) ・自然オフセット ・464 号に桜並木 ・様々な関係を巻き込んで進める ・規制強化 ・分担しつつもみんなで作る (行動する) ・水辺の活用、谷津の埋立禁止 ・なくしたらつくれないもの、残したいものを必ず守り生かす ・市民活動の活性化 ・市民による人気投票 ・町内会の活動 ・産業発展にプラスになる景観を取り入れる ・事業者の協力 ・景観コンテスト実施 ・谷津が住宅地化しない様に ・グリーン歩道自転車で行ける ・シンボル地区の社会実験 ・駅からの緑の誘導 ・よい景観=よい空間=居心地がよい ・斜面林保全のための規制とインセンティブ
C 班	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史・文化を守り育む ・産み育て受け継いでいくここにある風景 ・ランドスケープにおいてのテーマの明確化 (地区別等で) ・美しい街印西市 ・やすらぎのある街 ・目にやさしい心にやさしい景観づくり ・みんなの印西市 ・みんなの印西市市民一人一人の手で美しい印西市を作ろう ・新旧市街地の交流調和を図る”市民広場”等の創設 ・対費用効果の概念の導入による優先順位の策定 ・市民全体を巻き込んだ街づくりを目指す (学校教育も含む) 	<p>【保全・活用すべき景観】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保全活用すべき景観 <ul style="list-style-type: none"> ・里山：人の手が過度に加わらない昔ながらの風景 ・文化：民族行事など昔から伝わる素朴な伝統 ・公共施設：人が憩い集う公園など ・道作古墳群 ・旧村地域里山景観 ・豊かな緑、豊かな水辺、豊かな自然環境 ・水辺環境、六軒川、弁天川 ・千葉ニュータウン中央駅近企業前の美しい庭 ・整備された道路 (国道 464 号北総線の立体交差) ・寺社建築、巖島神社、横綱碑 <p>【改善すべき景観】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・UR との連携不足 (廃棄物処理など) ・UR 所有の空地改善 ・464 号沿道の雑草 ・眺望点からの景観の整備 ・木下のまちなみ ・木下街道沿いの景観 ・今ある緑の整備 ・万葉公園の整備 ・ゴミが捨てられている空地 (ヤード) ・中心市街地 (木下、小林) 街並みの活性化 <p>【新たにつくる景観】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無電柱化で緑の多い街並み ・464 号沿い北総線沿いの整備 EX 木を植える ・NT 地区造成の不均一 ・新たにつくるなら今の景観をしっかりと ・464 号沿/北総線の植栽 (例えば白井は桜並木とレンギョウ) <p>【取組・進め方・体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新旧の調和 (ニュータウンと木下等の旧市街地)

	<ul style="list-style-type: none"> • 地域の人が協力して街づくり • 観光資源としての活用＝宣伝活動（市民の集まり市外からの観光客） • 学校教育の中で若者や子供たちに関心を持ってもらえるような試み <ul style="list-style-type: none"> ・ 地元探検 ・ 思い出のある場所 • 新市街地と旧市街地を繋げていく取組 • 住宅地内の小公園市民参加の草取り自宅前の道路
--	---

■ 各班代表者による発表内容について以下に示す。

班	発表内容
A 班	<ul style="list-style-type: none"> • 保全・活用すべき景観について、印西の特徴である印旛沼などの水辺や谷津、歴史文化をうまく PR することが重要である。 • 改善すべき景観について、里山や国道 464 号周辺の目立つソーラーパネル。また、沿道のゴミや雑草、非常に増えてきたヤードは景観を損なう一番の要因である。その他、道作古墳等の貴重な景観資源が電線・電柱で隠れていることがあるため、それらを撤去するような施策が必要。 • 新たにつくる景観について、近くで見られるような水辺などを探し出す必要があると思われる。それから公共施設として特に国道 464 号沿いのゴミが目立つので花壇などを目立たせることも必要である。また、新興住宅地周辺の調整池は、遠くから見るときれいだが、近くから見るとヘドロが溜まっているので良い景観になりうるのにもったいない。 • 取組・進め方・体制について、地域の協力が必要なので山の土地所有者を巻き込んだ取組が必要である。また、印西市は旧石器時代から人が住んでいる歴史があるので、歴史資源と景観の融合を考えていくことが重要である。そのほか、市全域の景観を損ねる人工物の洗い出しを行い、それらの撤去が必要である。それから高所（20～30m）からの眺望を具体的に洗い出し、それを決めて散策マップをつくると PR に繋がる。また、雑草の管理について、例えば国道 464 号は県管理のため、市での対応が難しくなることから横の連携の対策もしてほしい。印西市は谷津や里山が多いことから、自然の小動物や蝶、トンボ等の生物が非常に多い。これは全国的に非常に有数な場所であるのでその点を PR したらどうか。それから良好な景観写真の市外への PR も大切である。 • 基本目標について、住民がつくるうるおいのある景観や自然と歴史がわかるような景観と関連付けるとよい。また、景観は個人の印象ではなく誰もが同じ思いを持つことが重要であることから「誰もがやすらぐ景観づくり」という意見が出された。
B 班	<ul style="list-style-type: none"> • 保全・活用すべき景観について、最近、乱開発による谷津の埋立やヤード（資材置場）が増えてきたので、印西の特徴である谷津や斜面林、里山を守っていくことが重要である。 • 改善すべき景観について、田園内のメガソーラーや河川改修の残土など調整区域における意見が出た。 • 新たにつくる景観について、印西の特徴である都市美の側面から無電柱化により都心をきれいにすることが重要である。田園と都市が近接しているところ特徴だが、田園と都市を結ぶような散策路や谷津などを周れる散策路（エメラルドネックレス）を考えてはどうかという意見。また、調整区域の開発が危惧されているので例えば、自然の部分を開発したら周りの緑地を公園として提供するような制度の検討。キーワードとしては、「水」や「都市と自然を調和させて繋ぐ」、「居心地」、「賑わい」について意見が出された。 • 取組・進め方・体制について、みんなでつくる、巻き込むという意見が出された。 • 基本目標について、印西らしさや景観で何を指すのかがポイントである。印西らしさでは、東京から 1 時間で駅前に都市が広がり、数分歩くと手つかずの自然があるのは東京近圏でもほとんどないことから「自然と都市が調和」や「都心からの近さ」が印西の特徴である。また、利根川や印旛沼、手賀沼に囲まれた下総台地に谷津が多く入り組んでいることから、水や緑が豊富などところも印西の特徴である。以上から、実際に住んでいる人に対する居心地の良さによって、住んでくれる人が増えれば良いということで「居心地の良さ」という意見が出された。
C 班	<ul style="list-style-type: none"> • 保全・活用すべき景観について、古墳群や六軒川、厳島神社等の豊かな緑や水辺と千葉ニュータウン中央駅付近の美しい庭（ビジネスモール）が優れている。 • 改善すべき景観について、UR との連携不足や国道 464 号沿道の雑草、ゴミが放棄された空地の景観、さらに中心市街地である小林地域や木下地域の町並みを活性化することが必要である。 • 新たにつくる景観は、無電柱での緑の多いまちなみの景観の創出や、白井市がすでに行っている国道 464 号・北総線沿いの整備の延長という考え方から、国道沿道への植栽も必要である。 • 取組・進め方・体制について、千葉ニュータウンや木下等の市街地と地域の調和、また、市民参加による自宅前などの道路の草取りをする体制。そのほか、若者や高齢者に関心を持ってもらえるような

試みということで地元探検や思い出のある場所を子供たちに向けての学校教育も必要である。

- 基本目標について、自然、歴史文化を守り育てていくという考えから「人は自然に生かされている」という意見や、「美しいまち印西市」、「やすらぎや心にやさしい」、「目にやさしい」、さらに市民一人一人の手で美しい印西市をつくるという考えから「みんなの印西市」という意見、さらには「地域と市街地の交流」や「調和を図る市民広場の創出」も大切であるという意見が出された。

(3) 連絡事項

- 印西市景観計画等策定委員会委員への本懇談会代表者として下田泰司委員、吉田紀子委員が選出された。
- 次回懇談会は、7月中旬の開催を予定しているので、日程が確定次第、各委員に連絡する。

■写真



▲懇談会の様子1



▲ワークショップ意見出しの様子1 (A班)



▲ワークショップ意見出しの様子2 (B班)



▲ワークショップ意見出しの様子3 (C班)



▲ワークショップ代表者発表の様子1 (A班)



▲ワークショップ代表者発表の様子2 (B班)



▲ワークショップ代表者発表の様子3 (C班)



▲ワークショップの各班台紙結果

以上